

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2590100174
法人名	医療法人 和行会
事業所名	洛和グループホーム大津若葉台
所在地	〒520-0845 滋賀県大津市若葉台30-25 (電 話) 077-534-7840

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年6月26日
評価確定日	平成21年8月27日

【情報提供票より】(平成 21 年 5 月 27 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	6 人
利用定員数計	9 人
常勤 5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6 人	

(2)建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,700 円		

(4)利用者の概要(5 月 27 日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 83 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	洛和会音羽病院 金田医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑寂な住宅街の一角、丘陵の緑を道路向かいに持つ自然豊かな地にあるホームです。利用者の言葉から紡いだ、「思いやり、助け合い、笑いあい」をホーム理念としています。利用者同士や利用者と職員、職員同士が共に力を出しあえるようにとの思いを日々実践されています。オープン後一年を迎えるにあたり、地域の自治会への入会や、家族との関わり、介護計画はじめ書類の整備等に力を入れ、利用者の自立支援に向けて取り組みを展開されています。ホームでは男性職員が多く、職員同士の関係も良好で、多くの意見を出し合いながら、新しく立ち上がったホームの基礎づくりに努めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価内容のコピーを申し送り帳に添付し職員の記入を促し、現場の具体的な内容については職員の声を直接聞き、管理者が記入しています。評価の中で幾つかの改善課題が出され、具体的な改善に向けて取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に一度の運営推進会議が定例化するに至っており、利用者・家族、地域包括センター職員、管理者、職員が参加して行われています。ホームから行事や利用者の様子などが報告され、参加者からは意見や提案を頂き、サービスの向上に努めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は意見がある時などは管理者や職員に直接訴えがあり、管理者も面接時には積極的に聞き出すように心がけています。出された意見については職員間で協議検討し、来訪時や手紙などで返しています。また、法人として年2回アンケートを取り、苦情ボックスを玄関に設置するなど、意見を言いやすい配慮を行い運営に反映するようにしています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時や玄関先での日向ぼっこで出会った近隣の方々と挨拶を交わし、地域に溶け込んでいます。自治会に5月から加入することになっており、地域のかかわりが深められる態勢にあります。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念を利用者の日々の言葉から拾い、職員間で検討され、利用者と職員、そして地域とホームが共生できるようにとの思いを込め、「思いやり、助けあい、笑いあい」との理念を作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を玄関に、ホームの理念はリビングに、だれも見えるように掲げられている。理念は日々の介護の振り返りと位置付け、カンファレンス時には理念に立ち返って確認し合い、実際のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時や、日向ぼっこで玄関にいる時など近所の方々と挨拶を交わしている。ようやく自治会への加入が決まり、地域との交流が展開されようとしている。今夏にはホームとして夏祭りを企画しており、地域に声を掛け交流を図る準備をしている。	○	自治会への加入と共に地域との交流が始まる事と思われます。地域の状況把握と共に、より積極的な地域交流の展開を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めてとなる外部評価に向けて、申し送り帳に自己評価票のコピーを添付し意見を募り、時には職員に意見を聞きながら管理者が記録を行った。自己評価の中で見えてきた改善点については、自治会の加入を実現し、利用者と職員が落ち着いた生活が行える事を最重点に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に一度のサイクルが組めるようになってきている。参加者は、地域包括支援センター職員、家族、管理者、職員で構成され、ホームからの報告や意見のやり取りがなされている。	○	自治会等地域住民や民生委員の出席を求め、地域の情報を得たり、ホームを地域にアピールし、また高齢介護の拠点となるような取り組みされることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加は見られないが、地域包括支援センター職員が参加している。法人担当者が窓口となり、運営推進会議の議事録等を持参し、運営状況の報告等の対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送る際に、利用者の日々の様子や健康状態が記載された個別の便りや、預かり金の収支報告や写真、法人の月間冊子などと共に同封している。家族の来訪時にも報告し、状況の変化がある時には随時連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は何かあれば直接管理者や職員に話されており、管理者も積極的に意見を聞くようにしている。また玄関には苦情箱を設置し、契約書類に相談苦情窓口を明記している。出された意見や苦情についてはカンファレンスで協議検討し、返答を伝えている。法人が年2回、家族アンケートを実施しサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員を多く配置する事で離職を防ぐ努力がなされている。管理者は職員の様子を見ながら、1対1で悩み等を聞くようにしている。新任のスタッフについてはスタッフ間で話し合い、より利用者に馴染みやすい関わりを作るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画があり、希望に応じて勤務を調整しつつ参加に繋げ、ホーム内でも毎月テーマを決めて勉強会を行なっている。実践者研修等外部研修へは、管理者が指名して職員を派遣している。また研修受講者は必ず報告書を記載し、カンファレンス時に他の職員にも伝え、資料は閲覧し職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム間において管理者を中心に交流が行われている。以前行われていた職員間の交換研修も検討されているが、他事業所との交流は行われていない。	○	県のグループホーム連絡会に加盟されているが、まだ参加には至っていない。落ち着いてきた1年の経過の中で、職員も含めた他事業所との交流により、更なるサービスの向上が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、自宅や入院先などを訪問し、情報を収集している。出来る方には見学を勧め、おやつを共にするなど工夫をし、馴染みやすいように支援している。入居後は家族の協力も得ながら出来るだけ1対1で本人に寄り添い、雰囲気に慣れ親しめるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の履歴や経験を踏まえ、お願いできる事は役割として手伝っていただいている。その中で利用者から職員に対してねぎらいの言葉が聞かれるなど、お互いが気遣い合い日々の生活が育まれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、多くの情報を利用者本人や家族から収集し、記録に繋げている。困難な場合には表情やしぐさから、あるいは家族からの情報を基に本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、本人や家族から収集した情報をもとに暫定プランを立て、カンファレンスにて職員の意見を聞いた上で、本プランに繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを開催し、職員間で確認し合い評価を行ない見直しを行っている。評価の結果、状況に変更がなければ6か月ごとにケアプランを更新し、変化がある場合は随時カンファレンスを開き、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助、美容院の予約や送迎、花を買いにと、利用者の要望に応じて外出している。利用者の思いの実現の一助として、個別の計画を立て、遠出や外食など希望に対し、状況を見ながら実現している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には利用者や家族の希望に添い、かかりつけ医を決めている。在宅時の主治医による往診もあり、協力医の月2回の訪問診療や、週1回の訪問看護による医療連携があり安心の医療体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には法人の看取り指針を提示し、説明した上で同意を得ている。必要時には家族、医師、訪問看護師、職員等で話し合い方針を決定し、対応していけるよう職員間でもスキルアップを図っていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎年マナー研修を行い、職員のプライバシーへの意識を高めるように努めている。時に不用意な発言がある場合などは、お互いに話し合い注意を促すようにしている。個人情報の記載された書類は、鍵のかかるロッカーに適切に保存されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間も含めて利用者の意向を大切にしている。一人になりたい時間やちょっと外の空気を吸いたかったりと、小さな思いを実現できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日冷蔵庫をのぞいて、職員は利用者とは献立の相談をし決めている。野菜を刻み、味見をしていただき、盛り付けや後片付けなど出来るだけ利用者の手を借り一緒に行うことで食事作りを楽しんでいる。時には出前を取って庭で花見をするなど気分を変え食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かし、希望に添える体制にある。基本的には午後2時から夕方5時ころまでを入浴時間としているが、午前中の中の入浴も可能で、利用者の要望を基に入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	リビングや外回りの清掃、食事の準備、花の水やりなど出来るだけ利用者の手伝って頂いている。折り紙や百人一首等の趣味の楽しみごとを取り入れたり、ドライブや出前を取るなど、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は希望に合わせて職員と一対一で出かけており、外出が難しい場合は、玄関前に設置されているベンチで気軽に日向ぼっこが出来るようにしている。誕生日には外食希望にも応じ、利用者の希望を聞きだし計画を立て外出に繋げている。	○	利用者は積極的に外出を希望されない場合もあるが、できるだけ散歩が日課になるような工夫や、気軽に出かけられるような機会が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中解放されており、夜間は防犯上施錠している。利用者に出かけたいようなそぶりが感じられた時には、職員と一緒に出かけるなどの対応を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2月に消防署の立会いのもとに昼間想定避難訓練を行った。夜間想定での訓練や地域への呼びかけなど、課題があると認識している。	○	自治会に加入できたことでもあり、回覧板等を通じて、情報を得て、地域に協力を呼びかけるとともに、地域の防災訓練に参加する等の取り組みがなされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回記録に残し、水分は一日の摂取量の範囲を基準に見守られている。毎食の食事内容は検食簿に記載し、法人の栄養士が定期的に評価している。食材はなるべく柔らかめに作り、利用者の状況に応じてミキサーをかけたり、刻んだりして対応する事もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鳥のさえずりが聞こえ緑にあふれる環境にホームがある。玄関先のベンチで、利用者が気軽に外気を楽しむ事が出来、通りすがりの方々との交流がなされている。玄関に繋がる空間は、ソファが設置され利用者の癒しのスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングで設えてあるが、希望によっては畳に替える事が出来る。利用者は小さなダンスやテレビ、いすなど使い慣れた家具を居室に据え、入口に暖簾を付けたり、家族写真やアイドル歌手の写真を飾るなど居心地の良い居室への工夫がされている。		